

新居浜弁 最高! 再考 PART 6

「ももたろう」を新居浜弁で語ってみると…



もー、ずっと前の話じゃけんど、あるとこに
むかしむかし、あるところに
おじいさんと おばあさんが おったんよ。
おじいさんとおばあさんは暮らしていました。

おじいさんは「たきもん 取りに 行ってこーわい」ゆうて
おじいさんは「薪を取りにいってくる」と言って、山へ行きました。
山へ 行ってしもたけん、おばあさんは 川に洗濯に
(家に一人になった)おばあさんは、川へ洗濯へ行きました。
行ったんよ。ついでに あらいやけも したろか 思ての。
ついでに(食器などの)洗いものも しようかな?と、思っていました
ほんで、洗濯しようたら、川から大きな桃が どんぶらこ~
そうして洗濯をしていたら、川から大きな桃がどんぶらこ
どんぶらこ~ ゆうて 流れて来たけん。まあ たまげるわね。
どんぶらこと流れて來たので、おばあさんはピックリしました。
こないだ いでさらい しどっけん、

先日、川の掃除をしていたので、
桃も つまらんかったしの一。
桃も(川の障害物に)引っ掛かることもなかった様です。

桃 拾た おばあさんは、家に持って帰ったんよ。

桃を拾ったおばあさんは、家に持ち帰りました。

おじいさんが 帰って来るん待って、桃切ってみたら
おじいさんが帰って来るのを待って、桃を切ってみると
せばくるしいのに 桃の中から 男の赤ちゃん でてきての一。
狭い狭い桃の中から、男の赤ちゃんがでてきました。
「神さんがくれたんじゃわー」
「これは神様からの授かり物だ」
ふたーりとも 子どもおらんかったけん 喜んだわね。
二人には子どもが居なかつたので、大変喜びました。

名前を「桃太郎」ゆーて 付けて 育てるんじゃけど、赤ちゃん
名前を「桃太郎」と付けて育てます。赤ちゃんの時には
んときは そりゃ えびすくうたり しょったけど、ちょっと大
赤ちゃんらしく、顔をしかめたりしていましたが、少し成長すると、
きなった時には、「りっこせい」ゆうたら、すぐ背中から降
(おぶっている際に)「もう、降りなさい」と言えは、すぐに背中から降っていたし、
りよったし、本読んだら読んだで、ちゅうで言えたりして
本を読んだら、丸暗記して(その内容を)言えるような、
の一、よいよに あたまも かしこい子お ジャッタケン。
とても賢い子どもでした。

ほんで 元気にそだって、ええ若いしに なったんよ。
そして、元気に育って、とても立派な若人となりました。

ある日、おせらしなった 桃太郎が おじいさんと おばあさ
ある日、大人らしくなった桃太郎は、おじいさんとおばあさんに言いました。
んに ゆーたんよ。

「鬼が島 行ってこーわい。ほんで 悪い鬼 やっちゃんけん」
「鬼が島に行ってきます。そして、悪い鬼を退治してきます」
「やめとかんかい。鬼に ぶちくらされるがね…」
「そんなことはやめておきなさい。(逆に)鬼に殴られてやられてしましますよ」
おばあさんは 反対したんやけど、桃太郎も がいなけんの一、
おばあさんは反対しますが、桃太郎も気が強いので、

どうでて こうて このまま 鬼 ほおーとったら、

どうもこうも、このまま鬼をのさばらしていると、

また村に来て 悪さも しかねんけん、

(以前のように)また村に来て、悪いことするとも考えられるので

「そんなこと あるけや、村のためじや!」

「そんなことはない! 村のために戦うんだ!!」

言うたら、おばあさんも あきらめての一。

と言うと、おばあさんも諦めました。

「これ もっていかんかい」ゆーて、

「これを持って行きなさい」と、

おばあさんは きびだんごこっさて 持たしてくれた。

おばあさんは、きびだんごを作って持たせてくれました。

おはようございました。ごめんよ~、遅なつてしまつて。新居浜弁の昔話、1年振りにやるけん。今回は「ももたろう」じゃけどの~、作りよつて思たけど、鬼退治のところは、新居浜弁が生きるわ~(笑)。西条のみんなも、たいがい分かる思うけん、読んでみてんや。

桃太郎は いきしに イヌと おーたんよ。

桃太郎は行く途中でイヌに出会いました。

「桃太郎さん どこ行きよん?」

(犬)「桃太郎さん どこへ行つてゐるのですか?」

「イヌけや、久しぶりじゃのー。やりよんけや?」

(桃)「やあ、イヌくん、久しぶりだね。元気かい?」

「わしは鬼が島 行くとこじやきん」

ぼくは今から鬼が島へ行くところだよ

「ほんなら きびだんご ひとつつよーだいや、ついて行つたげよ」

「それなら、きびだんごひとつくださいな。お供します」

「ひとつでえんけや。よくげないの一。」

「ひとつでいいのかい? 欲のないイヌくんだな。

「ひとつ あげらい。ほんなら一緒に行くけや」

ひとつあげましょう。じゃあ一緒に行こう

ほんで サルとキジにもおーて、こいつらも きびだんご

そして、サルとキジにも出会い、サルもキジもきびだんごが

欲しいけん、「鬼が島について行つたげよ」 言うたわね。

欲しいから、「鬼が島へお供します」と言ってきました。

ほんでも サルは きょろさい じゃけん、桃太郎も 「えんか

しかし、サルは落ち着きがないので、桃太郎も「連れて行っていいもかどうか」

いのー?」ゆうて ちーとは 考えたんじゃけど、「よっしゃ、

と、ちょっと悩みましたが(最終的には)「分かった、連れて行ってあげよう」

連れてつた!」ゆうたら、サルも さいあがつとつたわね。

と、言いました。するとサルは調子に乗って喜んでいました。

鬼が島について、陰から こそーと見よつたら、鬼ら 宴会

鬼が島に到着して、物陰からこそと、鬼の様子を見ていたら、鬼達は宴会を

しよるけん。村から取つて来た 宝もんや おごつおさん

していました。そこには村から奪つた宝物や、ごちそうもたくさん並んでいました。

並べとるしの一。見よつたら むなくそ わるいかい。

見いたら、腹立たしく思つてきました。

「こいつら、なんしょんてやあ。腹立つわあ。」

(桃)「鬼どもめ、なにをやつているんだ。腹が立つな。

よっ、行つちゃろ!! お前ら おじたり すんなよ!!」

よし、行くぞ!! (イヌ、サル、キジに向かって)怖じ気づくなよ!!」

鬼たちも 急に桃太郎らが来たけん、たまげとるわ。

鬼たちも急に桃太郎たちがやってきたので、びっくりしています。

「なんでや こいつら?」 ゆうて はむかいよったけど、

「何だ!お前達は?」と、抵抗していきましたが、

イヌはかみつくわ、サルは引っ搔くわ、キジはつつくわ、

イヌは噛み付き、サルは引っ搔き、キジは(くちばしで)突き、

ほんで 桃太郎も めちゃ強いけん、おどれ すどれ ゆうて、

そして、桃太郎もめちゃくちゃ強いので、血気盛んに

ぼんぼん くらして しめあげよる。

どんどん、やっつけでは、(鬼達を)降参させていきます。

宴会しようた おごつつおさんも わやくちゃになって、

宴会の席のごちそうも、めちゃくちゃになって

汁もんやか 落ちてしまて、そのへん じる田んぼみたいに

(スープなど)液状の料理は落ちてしまって、辺り一帯が水浸してぐちゃぐちゃになっとるけん、鬼も **さらこーに 動けんわね。**

なっているので、鬼たちも機敏に動くことができません。

ほんで キジやか 空飛べろー? 空から つつき回れるけん

で、キジは空を飛べますよね。だから空から突いて攻撃するので、

がいげな 鬼らにも あおじに できよるしのー。

荒々しい鬼たちでも(体に)内出血が見えてきました。

鬼の親分も 最初は はっとたけど、

鬼の親分も最初は五分五分の闘いをしていましたが、

とうとう「こらえてつかーさい」言うて 謝りだしたわい。

最後には「ゆるしてください」と、謝ってきました。

「なに すべった こべった 言よんぞー。

(桃)「何を言い訳しているんだ。

じゃらこじゃ ないんぞ。今まで村に 何してきたんぞー。

遊びじゃないんだぞ。これまで村にどんな悪いことをしてきたと思っていたんだ。

お前ら、村のみんなを もっと ひどこい目にえに

(鬼に向かって)お前達は村のみんなを、もっとひどい目に遭わして

あわして きたろげや!! なにを じゃらじゃら いよんぞ!!

来たじゃないか!! 何を今更(そんなこと)言っているのだ!!」

「もう村には 絶対行かんけん、ほんまに こらえてつかーさい。

(鬼)「もう村には絶対行きません。だから許してください。

盗んだ 宝もんも 全部返すし、鬼が島の宝もんも

盗んだ宝物も全部返します。(元々鬼が島にあった)宝物も全部差し上げます。

全部あげるけん。これで いねいねに してくれんで?」

だからこの条件で、無かった事にしてくれませんか?」

「よ~に 反省するんじゃのお? ほんなら 許したろわい」

(桃)「本当に反省するんだろうな? それだったら許してあげよう」

ほんで、桃太郎とイヌとサルで、宝もんの山を

そして桃太郎とイヌとサルで宝物のひとかたまりを

「せいの一 そりやっ!!」 ゆうて 車に積んで、

声を合わせて一齊に持ち上げ、(荷)車に積んで、

「もう悪さしたら いかんぞ」

(桃)「もう二度と、悪事をはたらいてはいけないぞ」

言うて、村に帰っていったわね。

と言って、村に帰っていました。

村に帰って来たらの一、みんなー 盗まれた宝もんが

(桃太郎たちが)村に帰って来ると、村人達は盗まれた宝物が

もどってきたけん、ばら喜んだわね。

戻ってきたので、大変喜びました。

鬼が島に 元からあつた宝もんも、みんなで まんべに

(鬼たちからお詫びでもらった)宝物も、村人みんなで公平に

分けたけん、どくれるもんも 出んかったしの一。

分けたので、不平不満を言う者は誰一人居ませんでした。

おじいさんも おばあさんも、ほんで村人みんなー、

おじいさんもおばあさんも、そして村人全員が、

桃太郎のおかげで 幸せになつたらしいぞね。

桃太郎のおかげで、幸せになりましたとさ。

これでおしまい。 ほんなら ぼちぼち おきましょわい。

これで(お話は)おしまい。 それではそろそろ、帰り支度に入りますので。

※ストーリーは編集部で一部脚色しております。

【本文内 赤文字 の解説】

いでさらい	小さな川や用水路の掃除をすること。田植え前などに共同で行うことが多い。
えびすくう	赤ちゃんが今にも泣きそうな時、口をぎゅっとして顔をしかめている様子。「エビをすぐう」から?
りっこせい	幼児をおんぶしている時に「もう降りなさい」と、言い聞かせる言葉。
ちゅうでえたり	ちゅうで言う.=文章などを丸暗記して、何も見ないで言えること。
どうててこうて	どう言おうが、こう言おうが。 どうにもこうにも。
やりよんけや?	新居浜、西条人男性のあいさつ。同世代や下の者に向かって言う。「元気にやっているかい?」の意味。
おどれ すどれ	「お前」=「おどれ」。「すどれ」は繰り返し言葉的な意味合いかもし?。もめごとを第三者に話す場合、その威嚇する様子や言い争う様を、一語一句説明するときりがないので、「おどれすどれ」と一括りしているよう…。
さらこーに	さらこい = すばしこい、素早い、機敏。
あおじに	打ち身や打撲で内出血して青くなっている様。「あおじ」とも。
すべつた こべつた	言い訳や、言い逃れをしている様。鳥取県の方でも使うらしい。
じゃらこ	正試合ではない、遊びごとのようなこと。
じゃらじゃら	不真面目なこと、いい加減なこと。西条では、言動に対して否定する場合、「いやいや。」と使うところを同意語的に、「何をじゃらじゃら おいべっさん」と言う場合がある。
いねいね	互いに損得なしにすること。相殺すること。
どくれる	不満を抱いて怒ること。すねたり、膨れつらになること。

ニュアンスや発音等は、地域、性別、年代などで異なります。また地域、性別、年代などで使う言葉、使わない言葉もございます。ひとくくりに「新居浜弁」とするのは大変おこがましいのですが、何卒ご了承ください。ご意見・ご感想を、編集部までお寄せください。メール info@hoo-ja.com